

ラ フォレ セ ラ ヴィ —森こそ命—



# La Forêt, C'est la Vie!



普及を進めている粘土製改良カマドと緑のサヘルの普及員たち  
(トレギンキャンプにて)

チャド共和国東部のワッダイ州とビルティン州では、隣国スーダン共和国における民族抗争により2004年1月から大量の難民が流入し、現在では12キャンプ地に21万人以上がテント生活を余儀なくされている。

難民支援に際しては、十分な食糧や水の提供に関心が集まりがちだが、配給を受けた食糧は調理されなければ食事として食べることが出来ないという側面は、意外と見落とされがちである。調理のために使われる薪材の量は莫大なものになる。このような側面を重視した UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)から支援活動への参加を打診された緑のサヘルは、これまで行なってきたチャドでの活動経験を活かせると判断して2004年4月にパートナー契約を結び、スーダン難民キャンプ地と周辺地の環境保全活動を開始することになった。

2年目を迎えた現在は、アドレ地区の環境部門担当として同地区に建設された3キャンプ地において、苗木生産や改良カマド普及、家畜死骸処理活動を継続している。

しかし、難民は既にキャンプ地の近くでは枯れ木を集め尽したため生木を伐採し始めており、周辺環境への圧迫や植生衰退への懸念が急速に高まっている。また、薪材や家畜飼料用の枝葉の入手をめぐる、地域住民との間にいさかきも発生している。これから先何年にわたって避難生活を送ることになるか判然としない今、難民と地域住民の双方が共に生活していけるようにするために、お互いの立場から環境保全に向けて取り組み、力を合わせる事が求められている。

## 【事務局よりご報告】

1991年に「緑のサヘル」が設立されて以来、10余年に亘って代表を務めて参りました高橋一馬理事が、去る2004年11月28日に開かれた「臨時理事会」において、健康上の理由から辞意を表明し、理事会によって承認されました。その後2005年4月20日に行なわれた「2005年度理事会」では、新たな代表理事として岡本敏樹理事を選出、本人の了承の上、正式に就任の運びとなりました。

岡本理事は岡山県倉敷市の出身で、同志社大学卒業後に青年海外協力隊に参加し、アフリカのセネガル共和国において3年間野菜栽培の指導に当たりました。帰国後は在コンゴ民主共和国（旧ザイール共和国）日本国大使館に派遣員として勤務しましたが、現地においてクーデターに遭遇し任期半ばで急遽帰国するという体験もしています。

「緑のサヘル」には1997年12月より参加し、チャド・プロジェクト責任者として現地に赴任、98年から2000年は国連ボランティアとしてプロジェクトに関わりました。2004年より理事を務め、2005年3月の帰国までチャド東部のスーダン難民キャンプとその周辺地域を対象とする「アベシエ地域環境保全プロジェクト」の責任者として活動に従事していました。



### 就任によせて

岡本敏樹

「緑のサヘル」がチャド共和国のバイリ地域において最初の活動を開始したのは1992年のことでした。その後93年に同国のトゥルバ地域、また96年にはブルキナファソ国タカバングゥ地域と、活動は次第に広がって行きました。

13年経った今、かつて果物が手に入らなかったバイリ地域では300を越える農家が果樹栽培を始め、川沿いには数kmに亘って果樹園が並んでいます。もちろん市場には果物が山積みになって売られています。トゥルバ地域に開設した2つの育苗所は、チャド最北端の育苗所として乾燥の厳しい地域の植生回復に大きな役割を果たしています。遠く砂漠地帯からわざわざ苗木を購入に来る方々も少なくありません。タカバングゥ地域でも育苗所の設置によって毎年の植林が可能となりました。現在も村の小学校や診療所、集会場の緑化、地域にある季節河川や古砂丘の土壌浸食防止等が続けられています。これらの活動は全て、現地においては地域の方々、日本国内においては会員を始めとする支援者の皆様と共に進められて来たものです。

また昨年より、チャドではUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）とパートナー契約を結び、東部のアベシエ地域に設置されたスーダン難民キャンプとその周辺地域に対する環境保全活動を開始しました。ブルキナファソでは環境省の委託事業である、住民への荒地回復と生活改善に関する技術の移転に着手しました。これらはいずれも現地におけるこれまでの活動が高く評価され、現在「緑のサヘル」が団体として大きな信頼を得ていることの証と言えます。

当初は不慣れ故、周囲の方々のお力添えをお願いすることも多いでしょうが、前代表を中心とした多くのスタッフ達が、皆様と共に築いて来たこの「緑のサヘル」を、一層発展させて行きたいと考えています。またそのために、私がこれまで参加して来た青年海外協力隊、大使館派遣員、国連ボランティア、そしてNGOという国際協力の様々な立場からの視点や経験を積極的に役立てたいと思っています。私、岡本敏樹を、そして新たな体制で未来に臨む「緑のサヘル」を、これからもよろしくお願い致します。

## 活動報告1

# チャド共和国



2004年11月1日に、緑のサヘルのローカル団体である AGS-Tchad (緑のサヘルチャド) が正式に誕生し、これまで行なってきた支援事業は、今後彼らの手によって展開されることになりました。緑のサヘルは、AGS-Tchad に対して、アドバイザーの役割を果たしていくこととなります。一方、UNHCR (国連難民高等弁務官事務所) とのパートナー契約に基づいて行なっているスーダン難民キャンプ地における環境保全事業は、アドレ地域の3キャンプ地 (ファルシャナ、ブレジン、トレギン) に絞って行なうことになりました。(チャド担当 岡本敏樹)

## チャドプロジェクト (2005年1月～3月)

### 1. 小規模村落育苗支援

バイリ地域においては、11村11住民組合が、各々の村落育苗所で苗木生産に取り組み、計3,040ポットの土詰めが完了しました。

一方、トゥルバ地域においては、トゥルバ村の協同組合では600本、ビルケレラ地域の協同組合では500本の苗木生産を予定しています。また、トゥルバ村の協同組合のメンバーである住民組合の一つが、独自に1,009ポットの土詰めと3樹種の播種を行ないました。

### 2. アグロフォレストリー

2つの住民組合が、それぞれ500本のアカシア・アルビダ育苗を希望しています。

### 3. 改良カマドの配布

バイリ地域では、金属製改良カマドの作製を予定しています。また、いっそうの普及に向けた講習会も行なうことにしています。

トゥルバ地域では、100個の金属製改良カマド頒布が希望されています。販売価格について見直しを行ない、今年は750CFA (約150円) を予定しています。

### 4. 住民組合支援

バイリ地域では、住民組合が年間活動計画や組合管理文書、分担金支払いシステムを立案・構築する手助けを行ないました。また、支援対象が3組合増え、合計で17組合となりました。第1四半期における組合資金の平均額は、572,910CFA (約114,582円) でした。

また、村全体を対象とした共同基金の設立が始まり、12村213名が参加し、総額526,945CFAが貯金されました。

トゥルバ地域では、10の組合とトゥルバ村の個人に対して100キロ入りの穀物241袋が貸し出されました。また建設された共同倉庫は、2組合によって順調に管理されています。

トゥルバ村から約10キロ離れた地点に、周辺7村を対象とした井戸を、PMR (ヨーロッパ開発基金小規模活動推進計画) と松下電器産業株式会社の支援で建設しています。

### 5. アベシエ地域環境保全事業 (UNHCR パートナー事業)

#### 1. 植林

アドレ村とファルシャナ村、ハジャハディッド村にそれぞれ20,000本規模の育苗所を建設しました。15～17樹種を播種し、現在育苗作業を継続しています。

#### 2. 改良カマドの普及

難民キャンプ地で活動してみて切実に感じるのは、環境問題はエネルギー問題抜きには語れないということです。トレギンキャンプで、フランスのNGOと協力して粘土製改良カマドの講習会を開始したほか、南部のゴズベイダ地域のキャンプ地においても、イタリアのNGOからの依頼を受けて、粘土製・金属製改良カマドの普及を予定しています。

#### 3. 家畜死骸処理

依然として、キャンプ地内における家畜の死亡は後を絶たず、埋葬と焼却処理を継続しています。3月までに697頭の処理を行ないました。



ファルシャナ育苗所に集合した現地スタッフ達

## 活動報告2

# ブルキナファソ



大きな変革の年として始まった2004年度ですが、2005年度に入ってもブルキナファソ・プロジェクトではその試みが続いています。まず、これまで使用してきた事務所を移転し、人事を含めたプロジェクトの見直しを行ないました。一方で、プロジェクト実施地であるタカバングウ村では、昨年度の降雨不足と巡礼バツタの襲来による穀物の不足がますます顕著になり、村人は今日明日の食料を得るために必死になっています。（ブルキナファソ調整員 利川 豊）

## ブルキナファソ・プロジェクト（2005年1月～3月）

### 1. 育苗所運営

今年度は、15樹種1,425本の育苗を行ないます。

また、2004年度から育苗所および育苗担当者への支援方法を変えています。緑のサヘルは、あくまでも住民が自らの意思で行なう事業へ支援するための存在であるという位置づけを明確にするためです。具体的には、これまでの直営をやめ、育苗所に対しては資機材の提供を支援の中心とし、育苗担当者に対しては彼が生産する苗木から村全体で行なう植林のために必要な本数を購入することにしました。育苗担当者が自立していく上で間接的な役割を果たす効果が期待できるからです。

### 2. 植林活動支援

植林については、村内7ヶ所で行ないます。また、タカバングウ村を流れるゴリア川の保護を兼ねたコミュニティーフォレストの一環として、新たに2ヘクタールの囲いを設けて植林を行なうことにしました。従来は首都ワガドゥグで囲いのために必要なすべての資機材を調達し、村まで輸送して設置していましたが、今回は針金から金網を作製する技術研修を受けた村の青年に、囲い用の金網作製を依頼します。習得した技術を活かすのみならず、現金収入の手段としても活用します。

### 2. 穀物支援

2004年度の降雨不良と巡礼バツタの襲来による穀物の不作は、村をして従来の穀物銀行の枠を超え、村全体による運営へと住民を動かすことになりました。しかしながら、穀物価格の高騰は日一日と激しく、既に食糧用穀物の買い付けと販売を行なっている村に対して、雨期を目の前にした栽培用穀物種子についても同様に計画・実行することを求めるのは、財政的・運営的にあまりにも困難です。そこで、緑のサヘルが栽培用の穀物種子を提供することにしました。

### 3. 野菜栽培支援

今年度の前半期にかけて、女性グループを対象とした組織運営の研修を行なう予定です。会議の運営法や会計帳簿のつけ方、監査の方法など組織としての効率性を向上させるための研修を行ないます。これにより組織としての能力が上げれば、野菜栽培においても効果が現れ、メンバーにとっても望ましい状況を作ることが可能となります。

### 4. 在来技術移転（環境省委託事業）

2004年度から始まったこの事業の目的は、住民の自主性による砂漠化防止のための技術選択と移転の実行にあります。2005年度は、住民が興味のある技術についてさらに掘り下げ、技術を選択してそのトライアルを行ないます。2月には、まずブルキナファソの先進地域への視察旅行を行ないました。タカバングウ村の住民10名の参加を得て、アリビンダ村、ブッロ村、ワイグヤ市及びその近隣村、そしてファラグントウ村の各地の様子を視察し、現地の住民と意見を交換しました。その後参加者からの報告を受けて、村全体で興味のある技術、石鹼作り、裁縫、畜耕そして土水保全の4つが選ばれました。今後、希望者から成るトライアルグループを組成し、それぞれの技術のトライアルを行なっていく予定です。



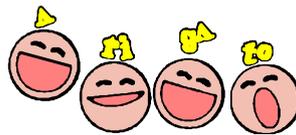
視察先の人の説明に熱心に聞き入る村人たち



# アフリカン・フェスタ2005に参加

5月14日(土)、15日(日)、日比谷公園において「アフリカン・フェスタ2005」が開催されました。円形噴水を囲むようにNGO・NPOブースが設けられ、緑のサヘルも出展しました。両日とも大変に賑い、アフリカン・フェスタ史上最高の人出となりました。切れ目の無いお客さんへの対応や会の説明にてんてこ舞いでしたが、ボランティアの方々のお手伝いのお陰で無事やり通し、2日間で203,340円を売り上げることができました。これらの売上金

は、チャドとブルキナファソの現地の人々の生活へと、責任を持って還元いたします。ボランティアの方々、また立ち寄って下さった数多くの皆様、本当にありがとうございました。



## 第32回帰国報告会開催

プロジェクト調整員としてブルキナファソに駐在していた利川豊の帰国報告会を、「ブルキナファソ・サヘル地域におけるNGO活動」と題して、5月26日に環境パートナーシッププラザで行ないました。当日は、ブルキナファソ国の現状とNGOをとりまく状況、そして緑のサヘルのこれまでの活動と今後の展望について、利川より報告がありました。平日木曜日の雨模様の天気での開催でしたが、参加者から多くの質問が出され、活気のある報告会になりました。



## 修学旅行生の事務所訪問!!



今年も、東から西から都道府県を問わず多くの中学校の生徒さん達が、「総合的学習」の一環として、修学旅行で東京を訪れた機会に東京事務局を訪問してくれました。どの中学校の生徒さん達も熱心に説明に耳を傾け、積極的に質問をしてくれました。また、事前の準備が万端で、担当した東京スタッフが思わず詰まってしまうような鋭い質問を受けることもありましたが、担当して下さった先生の皆様、訪問してくれた生徒の皆さん、ありがとうございました。(写真は岐阜県白川村立白川中学校の訪問風景)

# 事務局スタッフ紹介

## ～ 事務局スタッフが変りました 🐾 ～

2004年1月より事務局スタッフとして活躍しておりました宮根恭子が、今年2月をもって退職いたしました。3月から水真洋子が担当いたしました。また、菅川拓也理事が再び事務局長を務めることになりました。宜しくお願いします！

### 《宮根恭子より一言》

短い間ですが、お世話になりました。在任中にサイクルキャンペーンがあり、全国の緑のサヘル支援者の皆様や、各地で活動を行っている方々と一緒になってその思いを共有できたことは大変幸せなことでした。

今後も緑のサヘルを盛り立てていきたいと思っています。ありがとうございました。



2004年12月 タカバングー村  
村の若奥さんと一緒に。

宮根恭子は、一般企業を経て「緑のサヘル」に参加、NGOの専従スタッフは初めてでしたが、企業での経験を活かして会計、総務、ニュースレターの編集、イベントの企画等々、獅子奮迅の働きで事務局を支えました。今後はボランティアとして「緑のサヘル」を応援してくれるとのこと、心強い限りです。また水真洋子は青年海外協力隊員のOGで、現地の状況にも詳しく、明るいキャラクターもあって早くも会に溶け込んでいます。まだまだ勉強しなければならないことはありますが、「緑のサヘル」にとっては期待の戦力です。  
(事務局)

### 《水真洋子より一言》

皆様、はじめまして。3ヶ月の研修期間を経て今年6月より正式に東京事務局勤務となりました、水真洋子と申します。

まず、自分が参加することになった経緯について、少しお話ししたいと思います。緑のサヘルとの出会いは、ブルキナファソ国に始まります。私は2002年から昨年の12月まで青年海外協力隊の植林隊員として、同国で植林活動をしていました。その時に現地で緑のサヘルの日本人スタッフと会い、実際に活動現場であるタカバングー村を見学させていただきました。

村内にある緑のサヘル事務所には、毎日子供や青年たちが訪れ、スタッフを囲みながらお茶を飲んだり、今後の活動方針について話し合ったりしていました。また、子供たちは率先してスタッフのための水を井戸まで汲みに行っていました。村を散歩するとあちらこちらからあいさつする声が聞こえてきます。村の人々が緑のサヘルを家族のように慕っている姿が印象的でした。

これらの活動を見て共感を覚え、それがきっかけとなり今回東京事務局で勤務することになりました。現地での活動経験を生かして、現場の状況を少しでも多く皆様にお伝えできればと思います。

まだまだ新米ではありますが、どうぞ宜しくお願い致します。



2005年6月 東京事務局

# ありがとうございました

## 【 新規会員のみなさま 】

金谷 啓子/藤巻 晴行/大池 良平/村上 康子/特定非営利活動法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク/永田 ひろ子/宮田 春夫/水真 陽一/土屋 絢子/村井 智恵子/宮根 恭子/高木美奈子

## 【 継続会員のみなさま 】

中野 智之/本田 徹/杉本 和/瀬戸 義子/徳永 美和子/今野 進・和子/野津 喬/援助修道会 管区本部/加藤 和雄/片岡 稔・千尋/内山 照/大池 良平/塩澤 拓夫/高橋 剛/田中 洋介/中島 恵美/太田 弘子/小幡 光子/松下 有喜男/大久保 久美子/真砂 友子/小野 功/猪股 満希子/望月 克哉/小川 あい子/藤田 忍/大橋 邦雄/畑中 健一/梅田 暢子/矢島 昌子/縄田 紳子/大橋 邦雄/佐々木 順平/江刺 和広/井上 幸子/山内 康生・スエ/碓井 道子/和田 隆資/徳山 高光/澤井 温子/北岡 能隆/福川 佐代/中野 純子/石黒 勇平/岩永 孝子/高木 美奈子

## 【 ご寄付を頂きました。ありがとうございました。 】

八ヶ岳中央農業実践大学校/二戸市立福岡中学校/宇佐美 敏雄/加藤 正博/志村 裕子/内田 マリ子/秋山 智聖/高木 真味子/日塔 憲夫/天野 洋子/暁星中学・高等学校 暁星チャリテ/内田 一二三/本田 敬子/橋本 秀昭/浜崎 里美/小池 昌子/日本聖公会芦屋聖マルコ教会/宮本 秀子/禱 良子/アフリカ平和再建委員会/宮本 政子/鶴崎 恒雄/中島 恵美/大原 緑/太田 弘子/浪川 光代/井上 登志子/江川譲二/宮田 春夫/千葉友の会/大津友の会 総リーダー丸岡乃婦子/板倉 景子/石塚 由紀子/村本 晶子/浅野 理枝/小林 伸張/佐々木 充/垣内田 彩子/金子 兼夫/秋山 智聖/奥山 勇郎/佐々木 修一/高橋 伸朗/筒井 泰子/矢島 昌子/橋本 信司/大阪信愛女学院短期大学/大阪信愛女学院高等学校/大阪信愛女学院中学校/大阪信愛女学院小学校/だんだん工房/石本 雄大/萩原 たか子/金 明希/碓井 道子/榎本 みつ枝/和田 隆資/江刺 和広/福井 康代/松本 フミ/「世界の命=広島のを歌おうよ」の会/桃井 和馬/江本 嘉伸/村上 一枝/金澤 信彦/加藤 正博/小枝 清子/押木 貢/小野 介嗣/柏 秀樹/嶋田 義仁/太田 誠一/門村 浩/山田 和也・稚佳江/小島 訓子/熊谷 雄一/渡邊 かをる/アフリカの砂漠で木を植えている日本青年を支援する会/白川村立白川中学校

## 【 助成団体からの助成金 】

日本経団連自然保護基金/財団法人 地球・人間環境フォーラム/社団法人 国際農林業協力・交流協会/財団法人 国際緑化推進センター/財団法人 イーオン環境財団/毎日新聞社会事業団/財団法人 地球市民財団/特定非営利団体 アーユス仏教国際協力ネットワーク

(敬称略、入金順)

上記は2004年10月から2005年6月2日までにご支援いただいた方の芳名であり、6月3日から本紙編集までにご支援いただきました方につきましては次号の掲載とさせていただきます。

## 事務所を訪問してくれた中学校の皆さん、ありがとうございました

愛知県常滑市立鬼崎中学校/三重県伊賀市立大山田中学校/宮城県仙台市立田子中学校/岡山県倉敷市立連島南中学校/宮城県多賀城市立高崎中学校/京都府京都市立修学院中学校/岐阜県白川村立白川中学校/愛知県幸田町立幸田中学校/愛知県春日井市私立春日丘中学校/岐阜県可児市立中部中学校 (計 10校)

# おしらせ

## 書き損じはがきで国際協力しませんか？

昨年に引き続き、書き損じ葉書、古い年賀状など大募集しております。今年もどしどしお寄せください。なお、お届けいただきました葉書は新品と交換、もしくは換金し、活動に利用させていただきます。

## 絵葉書 プルキナファソからの便り

第47回産経児童出版文化賞受賞の小松義夫氏の作品による緑のサヘル特製プルキナファソ絵葉書も発売中です。

穀物を風で選り分ける婦人の姿が特徴的なAセット、タカバングウ村の少女も収められたBセットの2種類があります。また、今年からは一枚からでも販売しております。ご注文は緑のサヘル事務局までお願いいたします。なお、売上は活動費に充てられます。

価格 400円/1セット(4枚)  
100円/1枚

※ 郵送ご希望の場合、郵送料は別途申し受けます。

## カレンダー販売について

今年もカレンダーの販売を予定しております。デザインの詳細は後日ニュースレター等でお知らせしたいと思います。どうぞ、ご期待下さい。

## 近所から始まる国際交流

今年もアフリカンフェスタを皮切りに、各地で様々な国際イベントが開催されます。緑のサヘルは、10月1～2日には「国際協力フェスティバル」に、10月15～16日には「江東区民まつり」にそれぞれ参加し、パネルの展示や民芸品などの販売を予定しております。みなさま、お誘いあわせのうえ、ぜひご来場下さい。

## 編集後記

日本の通勤列車はチャドの大地並みに体力を奪っていくものだと感じています。負けずにがんばっていきます。(岡本)

また事務局長として運営に携わることになりました。新代表共々ががんばりますので、よろしくお願ひします(菅川)

初めてのニュースレター作成作業！支援者の皆様への感謝の気持ちを忘れずに、こなせる仕事をどんどん増やしていきたいです。(水真)

## お中元にどうぞ

### ハケ岳農場の特産品

ハケ岳中央農業実践大学校の特産品がさらに充実しました。これまでの手作りチーズとアイスクリームに加えて、チーズケーキ、カレー、ソーセージなどハケ岳の新鮮な材料と確かな技術から生まれた品々が勢揃いの10セットです。各地への送料を含めた価格は下記の表にございます。

大学校のご厚意により、お求めごとに定価の20%が当会に寄付されます。

【お申し込み方法】郵便振替用紙にご依頼人様とお届け先様のご住所、氏名、電話番号、ご希望セット名と数量をご明記の上、下記までお振り込みください。

00140-9-50425「緑のサヘル」

※お振り込みから到着まで10日程かかります。

		関東 信越 北陸 中部 南東北	関西 北東北	中国	四国	北海道 九州	沖縄
A	アイス10個	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
B	アイス20個	6,400	6,500	6,610	6,710	6,810	7,020
C	チーズ	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800
D	アイス / ケーキ2種	3,800	3,900	4,010	4,110	4,210	4,420
E	ムース	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
F	ケーキ	4,930	5,030	5,140	5,240	5,340	5,550
G	カレー / ケーキ	5,000	5,100	5,210	5,310	5,410	5,620
H	ケーキ2種	3,230	3,330	3,440	3,540	3,640	3,850
I	カレー	3,580	3,680	3,790	3,890	3,990	4,200
J	チーズ / ソーセージ	5,730	5,830	5,940	6,040	6,140	6,350

### 目次

- 1……はじめに
- 2……事務局よりご報告
- 3……活動報告1 チャド共和国
- 4……活動報告2 プルキナファソ
- 5……活動報告3 日本国内
- 6……事務局スタッフ紹介
- 7……ありがとうございました
- 8……お知らせ

## La Forêt, C'est la Vie ! Vol. 23

編集 岡本 敏樹、菅川 拓也、水真 洋子/発行 岡本 敏樹/発行所 緑のサヘル/印刷 社会福祉法人 東京コロニー  
〒136-0076 東京都江東区南砂2-2-7 日本創造教育研究所ビル3F TEL:03-5632-3029/FAX:03-5632-3070

HomePage : <http://www.jca.apc.org/~sahel/> E-mail : [sahel@jca.apc.org](mailto:sahel@jca.apc.org)